

日本公庫総研レポート「地域観光産業における価値向上の取り組み」を発行
～持続可能な観光資源の創出条件とは～

日本政策金融公庫総合研究所では、日本公庫総研レポート「地域観光産業における価値向上の取り組み」を発行しました。

地域おこしの起爆剤として期待される観光産業ですが、観光ニーズは多様化し、かつての人気スポットであっても集客に苦勞する地域もあれば、逆に当初予期していなかった価値を見いだされて人気となる地域もあるなど、観光地側で何を観光資源としていくかが問われるようになっていきます。

本レポートでは、観光資源の組み合わせにより、従来にない価値を生み出した地域をケーススタディーに取り上げ、(1) どのように核となる観光資源を作り出したのか、(2) 継続してリピーター客を作り出すためにはどのような取り組みが必要か、について分析しました。本レポートの概要は以下のとおりです。

本レポートの概要

1. どのように核となる観光資源を作り出したのか

事例では、街並みや自然など従来の観光資源に、「アニメ」ファンが訪れる聖地としての価値や地元酒蔵を広域で楽しむツーリズムなどの価値を付加していました。ある温泉地では、従来の印象を払しょくするために温泉旅館が一体となってアピールしていました。いずれも、従来とは異なる層をターゲットにおき、その層を呼び込んだことが、成功に結びついています。また、このような新たな観光資源の創出にはタイミングが重要で、スピード感をもって取り組むことが成功のカギを握っています。

2. 継続してリピーター客を作り出すためにはどのような取り組みが必要か

事例からは、①試行錯誤を繰り返す、②参加者の広がりや仕掛け、③情報をより遠くへ発信する、④イメージを保全する、⑤収入と支出のバランスをとる、⑥地域内でルールを決める、といった特徴が観察され、完璧な計画書を作ってから取り組むのではなく、チャンスがあるとみれば素早く行動しているところが共通項でした。まずは、身の丈でできる範囲で考え、徐々に規模を大きくしていくことが重要と考えられます。

※本レポートの全文につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

＜お問い合わせ先＞株式会社日本政策金融公庫 総合研究所 中小企業研究第二グループ（担当：安池）
TEL：03-3270-1269